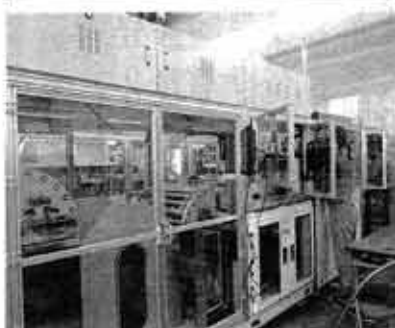


接着シート自動貼付

FUK タッチセンサー製造で

液晶関連ベンチャーのFUK(奈良県御所市、植村光生社長)は、タッチパネルに組み込まれるセンサーフィルムの両面に透明な接着シートを貼り付ける装置を世界で初めて開発した。自動化によって貼り合わせ工程で必要だった作業員が不要になる。価格は1台3億円前後だが、1年程度で投資回収できるという。



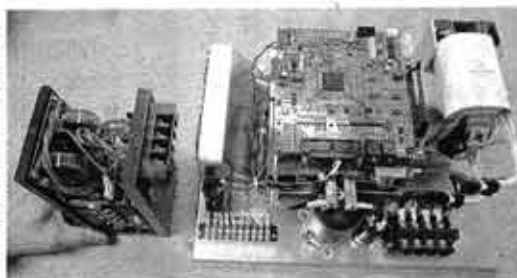
1号機は海外企業に納入予定(FUKのタッチセンサー製造装置)

新型パネルの普及後押し

0.05mm処理できる。ロ装置に装着するだけで、を自動化できる。600mmのセンサーフィルムを1分間に12フィルムと接着シートをズに合わせた切り出し、カバー

ガラスと液晶パネルを貼り合わせるタッチパネルになる。従来は貼り合わせ工程に、半製品の搬送などを作業員を配置していた。新装置を使えばそうした人員を確保する必要はなく、製造拠点を迅速に開設できる。

GF2 静電容量式タッチパネルの構造の一つで、透明電極(ITO(酸化インジウムスズ))をフィルム上に成膜したセンサーフィルムを使う。1枚のフィルムの両面にX軸とY軸の電極を成膜する。現在は片面だけに電極を成膜したセンサーフィルムを2枚合わせる「GF1」が一般的。フィルムが少ないため接着層も減りスマホなどが薄くなる。高導電性素材を電極に使えば消費電力も低減できる。



小型化した新製品は、重さも従来製品の1/6に

当初は機械商社の第一められるため、従来よりプレート(多機能携帯端末)もセンサーフィルムの使用枚数が1枚少ない「G低価格化に貢献できる。FUKは液晶パネルと技術の蓄積を生かし、大手メーカーに先駆けて、センサーフィルムと接着シートを貼り合わせる装置の建設にも携わった。

変圧装置、大きさ1/10

Mywayプラス

Mywayプラス(横浜市、星野修社長)は従来に比べ大きさを10分の1にした手のひらサイズの変圧装置を開発した。太陽光などで自家発電した電力の制御システムに汎用品として組み込んで使う。蓄電池などと組み合わせれば、工場や家庭に導入する電力制御システムの構築費用を10分の

電力制御システム構築費用を大幅カット

1程度に抑えられる。開発したのは「コンバーター」と呼ばれ、太陽電池などから取り出した直流電気の電圧を変える装置。価格は30万~40万円、従来の変圧装置の約半分。初年度に1000台の納入を目指す。大きさは100×94×183mmで、容積を従来品の10分の1に、重さ

15日付本紙休
14日(月)は新聞製
の目録産業新聞は休
承ください。最新の産
聞電子版でご覧ください

を6分の1に抑えた。電気を調整するために使うコイルの芯に、アルプス電気子会社が開発した「リカロイ」という新しい金属材料を使い、小型でも効率的に電圧を変換できるようにした。半導体にはローム製の熱に